

大阪日日新聞 平成27年3月5日

## 地域を守る「若い力」に「ジュニア防災検定」挑む

東日本大震災から間もなく4年一。最近、小中学生を対象にした防災教育が活発になりつつある。自主防災組織が高齢化する中、小中学生は日ごろ校区内に滞在して地域にも熟知しているため、将来の地域防災を担う“若い力”として期待されていることが背景にある。南海トラフ巨大地震の発生が懸念される大阪でも、門真市の北巢本小学校(225人)が府内公立校で初となる「ジュニア防災検定」(JBK)に挑むなど先駆的に取り組んでいる。

### ・いすの下に常備

北巢本小の防災教育は昨年の創立40周年で大きな転機が訪れた。PTAが周年事業として「全校児童へ防災ヘルメット寄贈」を提案、学校と家庭の理解を得た上で贈呈の運びになった。

各自がいすの下のネット袋に常備しており、阪神淡路大震災にちなんだ今年1月の訓練では実際に着用して避難するなど「自分で備える防災」について身をもって学んだ。

### ・枠組みづくり

JBKは、防災検定協会(本部・東京都)が小中学生に防災意識を高めてもらおうと内閣府などの後援で昨年度から全国で展開中。学年に応じて上、中、初級を設け、団体のほか一般でも受検できる。北巢本小ではPTA会長の江戸英一郎さん(50)が橋渡しとなり、2月に5年生約40人が初級に挑んだ。

家具の安全な設置法など知識を問う筆記テストだけでなく、事前に家族と防災について考えたりレポートの提出、事後の自由研究の総合で評価されるのがJBKの特徴だ。

受検した児童は「難しかったけど受けてよかった」「役立つことなので頑張った」と手応えに満足の表情。江戸さんは「子どもたちが平穩無事に授業を受けられる枠組みづくりもPTAの務め。学校の理解、協力があって一步步前進していることに感謝したい」と子どもたちを見守っている。

### ・防災の種まく

北巢本小は、府教委の実践的防災教育総合支援事業として学校防災アドバイザーの派遣も受けており、地域ぐるみで学校の危機管理体制の構築にも努めている。

苗代敏夫校長は「皆さんに『防災の種』をまいていただいた。命の大切さを大事に育てていきたい」と話している。